

平成25年度 上田市立菅平小・中学校 学校自己評価シート

学校教育目標	めざす子どもの姿（中期的目標）
郷土を拓く 大地の教育	①自分で考え、判断し、行動できる子ども ②自分や友達の良さを認め合える子ども ③仲間と協力して課題を解決していこうとする子ども ④自らを鍛える逞しい子ども ⑤郷土に誇りを持ち、郷土を愛する子ども
	今年度の重点目標
1	自分から進んで学習を進められる児童・生徒の育成をめざす。
2	互いの良さを認め合い、前向きに取り組む集団生活を目指す。
3	菅平の産業に学び、郷土に生きる人材を育てる。

総合評価					
全般的に概ね良好ではあったが、心配なことや分からないことは、教職員と保護者の両者から積極的に連絡し合う必要があると確認でき、学校だより・学級通信等を使って、児童・生徒の活躍の様子を発信することを行ってきた。 また、教職員が子ども達と向き合う時間や一緒に活動する時間を増やすとともに、個別に話を聞く機会を設け、子どもの気持ちを十分に受け止めたり、心の相談員やスクールカウンセラーとも連携を図り、児童・生徒が楽しい学校生活を過ごせるよう職員全員で確認し取り組んできた。その結果、児童・生徒が学校生活への前向きな気持ちが向上した。					
成果と課題	A	B	C	D	改善策・向上策
前期の反省を生かし学習習慣育成のため、家庭学習の充実を目指し高学年でチャレンジカードの導入をした。（主として小学校）	○				向上が見られたので、来年度も継続する。
まずは教師側から児童・生徒の良さを見つけ、学級全体に伝えることで互いの関わりの質を更に高める。（小中共通）	○				行事では顕著だが、日常的に意識して所属館を高める。
野菜作り（主として小学校）やスキー指導体験（主として中学校）を取り入れたキャリア教育を実践した。	○				地域の人材を更に活用して、継続性を持たせる。

領域	対象	評価項目	評価の観点
学 校 教 育	学習指導	小中連携の中で、児童・生徒の学びの質の向上を図る。 (TT学習を通して)	① 子どもは、学習に興味を持ち「授業が分かり易い」「興味が持てて楽しい・面白い」など、意欲的に学ぼうとしているか。 ② 小・中学校の先生が連携して授業を行っていることで、子どもの学習意欲は高まっているか。
		9年間の学習過程のあり方や、各学年の発達に応じた適切な指導のあり方を追究する。	③ 子どもは、各学年の学習内容を理解して、進級・進学への意欲を高めているか。 ④ 学校の授業（教育活動）は、低学年から高学年、小学校から中学校への連携が取れているか。
	生徒指導	教師自らが子どもの良さを伝え、児童・生徒の意識を啓発する。	⑤ 先生は、友だちや自分の良いところ・努力しているところをたくさん紹介しているか。 ⑥ 子どもは、先生や友だちから自分の頑張りを認めてもらうことで、「自分もがんばろう」と考えているか。
		小中それぞれの段階に応じたコミュニケーション能力や、より良い関わり方を身につける。	⑦ 子どもは、友達と協力して、進んで学習活動や行事に取り組んでいるか。
キャリア教育	地域との交流を通して、この地に生きることの喜びを実感させる。	⑧ 地域との交流（体験や作業を含む）は、子どもに菅平の素晴らしさを伝えているか。 ⑨ 子どもは、菅平についての学習や栽培・体験活動などを通して、地域に育つ喜びを感じているか。	
学 校 運 営	学校作りへの参加	教育課題を明らかにして学校作りに参加する職員。	⑩ 先生は、子どもの様子に目を配り、一人ひとりの目標や課題について応援しているか。
		菅平小・中学校の教育を考える保護者。	⑪ 保護者は、学級や学校からのお便りに目を通してしているか。
			⑫ 保護者は、困ったことや気になることを先生に連絡しているか。
			⑬ 保護者は、子どものがんばりを認めているか。（授業参観や懇談会、スキー活動、家庭学習、お手伝い等を通して）
⑭ 子どもの目標や将来の夢について、家庭で話題にしているか。			
その他	楽しい学校生活	⑮ 子どもは、毎日楽しそうに学校へ通っているか。	

成果と課題	A	B	C	D	改善策・向上策
(成果) 子どもが興味や必要感を持ち、意欲的に授業に参加できるような工夫を考えた。 (課題) 学習習慣の形成		○			教師の研修の機会を増やす。
(成果) 中から小への乗入として、「TT指導」へと推移した。 (課題) 打合せの時間が不足。	○				TT指導から、教科によってはコース別学習も行う。
(成果) 小中乗入の部分では、系統だった指導ができた。 (課題) 教科によるバラツキが大きい。	○				小中乗入教員同士の連絡会、研究会の機会を設けたい。
(成果) 小学校高学年では中学校での学習を意識した授業が行えた。 (課題) 授業と学問、各々の面白さ整合性。		○			<学び方向上>と<学力向上>を明確にし授業を計画したい。
(成果) 学級通信など、意識的に行えた。 (課題) 小1P、中1Gへの対応。		○			会議ごとに児童・生徒の様子を報告しあう機会を継続する。
(成果) 結果ではなく過程を認める雰囲気近づいた。 (課題) 褒め方の質的向上。	○				学級懇談会などの機会に、褒め方についての意見交換を行う。
(成果) 児童生徒が意識して協力する姿が多く見られた。 (課題) 日常生活にも目を向けさせたい。	○				行事への意識の高まりを日常の当番活動、委員会活動にも波及させていく。
(成果) 地域への意識は高まった。 (課題) 地域性になじめない児童生徒への対応。	○				野菜作り、スキー活動だけでない菅平を知る機会を増やすとともに、教科と連携した取組を行う。
(成果) 夏・冬で変わる“菅平の様子”を意識付けることができた。 (課題) 全ての目を向けた活動が必要。	○				地域の人材を掘り起こし、良き伝統を継承していく。
(成果) 目標や課題の把握が日常的に行うことができた。 (課題) 応援としての指導が行き届かない。		○			保護者との連携を密にし、信頼を向上させることを継続していく。
(成果) 発信された学校の情報に目を向けて頂けた。 (課題) 仕事が忙しい時期になると弱くなる。	○				更に、読み易く、楽しいお便りを目指す。
(成果) 一定の信頼は得られていると確信できた。 (課題) 多忙な時期には後回しになってしまう。	○				日ごろの変化を捉え、遠慮せずに学校からも連絡をとりたい。
(成果) 家庭でも学校と同じ目線で対応して頂いている。 (課題) 特になし。	○				行事精選など説明をしっかりと行い、理解を深めていく。
(成果) 3学期に集中して行われていることが分かった。 (課題) 日常化していく。		○			様々な可能性を持った児童・生徒であることの共通理解を図る。
(成果) 一番大切な点で高評価を得られた。 (課題) 精選される行事の中で児童・生徒の意欲を削がないように気を配りたい。	○				量的な楽しみから、質的な楽しみに向上させたい。

○ 評価基準 A…達成できた B…おおむね達成できた C…やや達成できなかった D…達成できなかった